高知大学男女共同参画推進室　しあわせぶんたん

NEWS LETTER

2020年3月 Vol.10

■「男女共同参画社会を考える」男女共同参画推進室・学生スタッフからの感想

総合人間自然科学研究科理学専攻2年　上杉 和輝

私はこれまで興味を持っておらず、「男女共同参画社会を考える」を履修していませんでした。しかし、来年度から社会人として働くにあたって社会についてもっと知り、関心を持たなければならないと思い、学生スタッフをさせていただきました。スタッフとして働きながらデートDVやワーク・ライフ・バランスについての講演を聴き、自分の思っていた以上に現在の社会に課題があることやそのことを一人一人が理解することの重要性について学びました。講演は実際のグラフ・表や講演者の実体験に基づいているもので、とても分かりやすく私にとって有意義でした。

総合人間自然科学研究科黒潮圏総合科学専攻2年　前田 親

この度、学生スタッフを務めさせて頂き、良かったと思う点が二つあります。まず一つ目は、男女共同参画についてより具体的に色々な視点や考え方を持てるようになったことです。講演会では様々な先生からお話を聞くことができ、社会の現状や今後の課題、現場の実情について知ることができました。そして二つ目は、運営スタッフの一員として、今までとは違う意識のもとで講演会に参加できたことです。円滑なプログラム進行、講師の方や学生さんへの適切な対応といった、スタッフならではのことを意識して業務にあたることができました。

これらの経験は今後の進路を考え、また社会で活躍していく上でも大いに役立つものと思います。貴重な経験をさせていただき、どうもありがとうございました。本当に有意義な時間を過ごすことができました。

■高知県ワークライフバランス推進企業認証を更新しました

2019年12月1日、高知大学は高知県ワークライフバランス推進企業認証制度要綱第4条の規定による高知県ワークライフバランス推進企業（次世代育成支援部門）として認証されました。有効期限は2022年11月30日までです。

認証マーク

■企業主導型保育ふくのたね保育園の従業員枠を利用できます

高知大学は福の種合同会社と保育所企業利用に関する契約を締結しました。本学教職員（常勤・非常勤）は企業主導型保育園「ふくのたね保育園」の従業員枠（定員の50%以上）でのお申込みが可能です。

※非常勤職員は社会保険加入者に限ります。

ご利用に当たっては、ふくのたね保育園に直接お問い合わせください。

● 問い合わせ先

福の種合同会社　ふくのたね保育園　〒780-0935　高知県高知市西塚ノ原29番地1

TEL：088-855-8341　Email：info@fuku-no-tane.com　URL：http://fuku-no-tane.com

■「がんと向き合う職場のために」を本学教職員の希望者に配布します

仕事と治療の両立に関する取組の一環として、リーフレット「がんと向き合う職場のために～女性がん経験者200人の声」（一般社団法人　ピアリング、2019年）を、本学教職員の希望者に配布します。本学教職員でご希望の方は男女共同参画推進室までご連絡ください。部数が無くなり次第終了となります。

〒780-8520　高知市曙町二丁目5番1号　高知大学男女共同参画推進室
TEL:088-888-8022　FAX:088-888-8023　E-MAIL: sankaku@kochi-u.ac.jp

高知大学における男女共同参画の取組

学　長　櫻井 克年

令和2年を迎え、新しい元号にも少し慣れた1月17日（この日は奇しくも神戸大震災からちょうど25周年）、環境大臣である小泉進次郎氏に第一子が生まれ、大臣自ら2週間の育休を取得すると宣言したことが話題を呼んでいます。一部の方から、『大臣が重要な公務を空けるのはいかがなものか』、などという声が聞かれてすっかり驚いてしまいました。国民の範となるべき大臣の一人として、男性が育休を取ることのどこに問題を感じるのでしょうか? 日本の社会は、まだまだ、男女共同参画を日常のものとするには遠いようです。

高知大学では、それまでの活動をより組織的に実施するために、平成24年から安全・安心機構のもとに男女共同参画推進室を置いて、鋭意、様々な活動を展開してきました。さらに自然な形で男性も女性も生き生きと働くことのできる職場づくりを目指すために、平成30年4月には、理事の所掌を、男女共同参画担当からワークライフバランス担当に改めました。

現在においては、若者ほど、ワークライフバランスを重視しているといわれます。その反面、厳しい環境下での労働には消極的であるともいわれます。私たちの高知大学を卒業してゆく学生たちには、自らを律する中で、快適な労働環境を創り出していくことを期待しています。そのためには、基本的なことではありますが、ワークライフバランスの取組が浸透すること、一人一人が自分の問題として考えることが最も重要だと思います。育児・介護中の方や女性研究者を含め、全ての教職員が働きやすい労働環境の充実等に向けて男女共同参画推進室を中心に取組を進めますので、みなさんも「しあわせをぶんたん」する取組にご協力をお願いします。

【令和元年度高知大学女性研究者奨励賞受賞者が決まりました】

令和元年度高知大学女性研究者奨励賞受賞者は、医療学系臨床医学部門皮膚科講座の 中島喜美子准教授に決まりました。中島准教授は、研究においては、ノックアウトマウス、トランスジェニックマウスを用いた疾患モデル系において皮膚免疫学、角化症分野の研究に重要な成果をあげてきました。2019年度には中島喜美子准教授らの論文が「The Journal of Dermatology（以下JDと記載）」の「Most Downloaded Article 2018」を受賞しました。

「Most Downloaded Article」は、JDのWebサイトで最も数多くdownloadされた論文のうち上位の数編について、JD誌の学術的価値や認知度を高めることに貢献したとして、賞状を授与されるものです。今回受賞した中島喜美子准教授らの論文、Mouse models of psoriasis and their relevance. J Dermatol. 2018 Mar;45(3):252-263.（乾癬モデルマウスによる病態解明）は、JD誌の乾癬特集号に掲載されました。

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」「四国発信！ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクト」

四国地域の問題・課題解決につながる研究から、世界の人々への貢献に発展する研究を目指し、四国地域の産官学9機関が連携して、女性研究者や若手研究者の挑戦の場を広げるとともに、女性研究者の裾野拡大や若手研究者の育成、研究者のライフイベント及びワーク・ライフ・バランスに配慮し、女性研究者のマンパワーを質的量的に増加させ、男性を巻き込んだ総合的なキャリアマネジメントに向けて、「四国発信！ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクト」を展開します。

代表機関	徳島大学
共同実施機関	香川大学・愛媛大学・高知大学・鳴門教育大学 徳島県立工業技術センター 徳島県立農林水産総合技術支援センター アオイ電子株式会社・協和株式会社
実施年度	2018～2023年度

補助事業による新規制度		高知大学の採択件数		支援上限額	支援対象者
		2018年度	2019年度		
連携機関による共同実施制度	ダイバーシティ推進共同研究支援制度	1	4（新規3、継続1）	50万円	女性研究者
高知大学による実施制度	ライフイベントからの復職支援制度	1	2	10万円	産休・育児休業・介護休業から復帰後2年度以内の女性研究者
	国際学術論文投稿支援制度	－	3	10万円	女性研究者
	女性研究者奨励賞	－	1	10万円	2年度以内に学会等で受賞した女性准教授・講師・助教

【ライフイベントからの復職支援制度を利用して】

2018年度採択　医療学系 基礎医学部門　王飛霏 助教

私は2017年に第一子を出産後、育児休業を経て復帰しました。復帰後は、子供の想定外の発熱や病気で休んでしまうことが多く、なかなか思い通りに研究が進みませんでした。

さらに、一旦ストップさせていた実験の系をもう一度立ち上げる必要があり、そのために研究費が必要でした。そんな時に「ライフイベントからの復職支援制度」を知り、申請しましたところ、採択され、実験を順調に再スタートでき、とても有り難かったです。

子育てしながら研究を続けるのは想像以上に大変なので、やはり周りのサポートが必須だと思います。私は幸い、技術補佐員さんや事務員さんがたくさん研究を手伝ってくれ、家では夫が子供のお風呂などを手伝ってくれました。今後も様々なサポートを利用しながら研究を続けていきたいと考えています。

2019年度採択　医療学系 看護学部門　笹岡晴香 准教授

私は、2人目の子供を出産して10カ月の育児休業取得後に職場復帰しました。恥ずかしながら、高知大学で10年以上働いていますが、子供を持って初めて大学における育児支援の大切さを痛感しました。育児休業明けは、研究費の獲得が難しく、研究を進めるための予算をどのようにしようかと悩んでおりました。その時に、この支援を受けることができて、本当に助かりました。

この制度の他に、休日の入試に関する託児もよく利用させて頂いております。休日の仕事は、子供の預け先を探すのが大変ですが、大学がサポートしてくれることで安心して仕事ができます。大学で教員として研究しながら子育てをする…他から見たらとても大変に見えるようですが、いろいろなサポートによって私の仕事と育児の両立が支えられています。

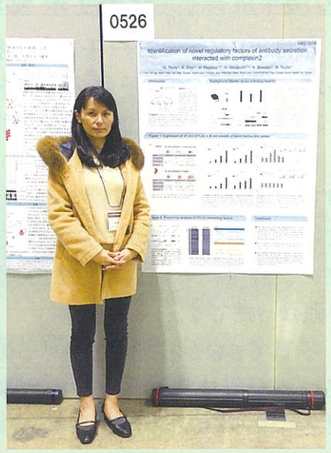
【国際学術論文投稿支援制度を利用して】

2019年度採択　医学部附属病院次世代医療創造センター　若林由美 特任講師

私は、電子医療情報（電子カルテのデータなど）の分析に関する研究に2018年から取り組んでいます。英文での論文を執筆していた時期に、国際学術論文投稿支援制度の公募情報を目にしました。始めたばかりの研究なので研究費があまりなく、英文校正の費用を捻出できずに困っていました。論文は文章がすべてではありませんが、英文の間違いが多いと査読を受ける際に不利です。早速この制度に応募したところ、採択いただきましたので、水準の高い校正をしてくれると評判の専門会社に依頼することができました。これが有効にはたらき、雑誌に論文を投稿して 2カ月後に、編集者から良い返事をもらうことができました。どうもありがとうございました。

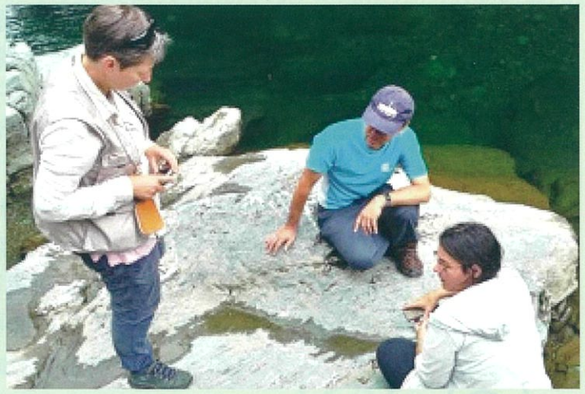
【ダイバーシティ推進共同研究支援制度を利用して】

2018年度採択　医療学系 基礎医学部門　都留英美 助教



2018年度よりダイバーシティ推進共同研究支援制度のご支援を頂き、徳島大学の田良島先生との共同研究を進めて参りました。研究対象は、細胞の開口放出を制御する小さな分子、Complexinです。この分子の発現に異常が生じると、全身的に情報伝達物質の分泌バランスが崩れ、生体恒常性維持機能にも影響が出てきます。特に、抗体分泌細胞の分泌制御メカニズムについて着目し研究をスタートしましたが、なかなか成果に結びつかず苦戦の毎日でした。そんな中、本研究制度より支援を頂き、Complexinが抗体分泌抑制に重要な役割を持つことを明らかにし、国際学術誌にも投稿することができました。今回頂いた支援を基に、今後の持続的な研究成果の創出に努めて参りたいと思います。

2019年度採択　総合科学系複合領域科学部門 Kars　Myriam 助教



One of my research projects is about the characterization of magnetic minerals in metamorphic rocks from the Sanbagawa Belt in Central Shikoku, north of Motoyama town. This project was possible because of "Grant for collaborative research promoting diversity". This gave me the opportunity to develop a collaboration with Alexandra Abrajevitch from Ehime University who is also a rock magnetist like me. This project also involves Hashimoto-sensei from Kochi University and Kodama-sensei, former professor in Kochi University and now at Doshisha University. We went in the field this summer to collect samples. My summer intern from Germany, Carina, joined us. The preliminary results are promising, and we are going to conduct further analyses to better understand the results. My collaboration, which has started because of "Grant for collaborative research promoting diversity", would be pursued in the future.

【ダイバーシティ推進共同研究支援制度を利用して】

2019年度採択　総合科学系複合領域科学部門　越智里香 助教

高知化学シンポジウム2019にて（堤さん（4年生）が優秀ポスター発表賞を受賞）

筆者は「生体分子に応答して色調変化を示す超分子ヒドロゲルセンサの開発（2019～2020年度）」という課題で本支援制度に採択いただき、米山香織助教（愛媛大学農学部）と共同研究を進めています。研究内容を簡単に説明しますと、生物の体内に存在する生体分子に選択的に応答して色が変化するゲル（ゼリー状物質）の開発を目指しています。これまでに、糖リン酸化酵素やアミノ酸に応答するゲルの開発に成功しています。

本課題は研究室に所属する学生さんの協力のもとに進めています。得られた研究成果については担当した学生さんに学会発表してもらっており、本支援制度は研究面のみならず教育面でも非常に有益なものであると感じています（学会発表4件、うち優秀ポスター発表賞1件）。最後に、本支援制度の運営・実施に関わる皆様にこの場をかりて御礼申し上げます。

2019年度採択　人文社会科学系教育学部門　磯部香 講師

2019年度・2020年度にわたり、「多文化共生社会構築に向けて少子化四国の保育と子どものウェル・ビーイングを考える―日本四国と中国遼寧省の子育て支援・就労・ジェンダーの比較から―」というテーマで、日本と中国の共同研究者総勢8名で調査を行っております。近い将来、四国においても、多文化を背景に持つ多くの子どもたちやその家族が、日本の子どもたちと共に地域で生活していくことになります。私たちが共生するには、どのような点が課題で何が必要なのかを、子育て支援・就労・ジェンダーの視点から考えていきます。また、このグローバルな移動は日本のみで起こっている現象ではなく、アジア社会一帯で起こっているため、隣国中国遼寧省大連市にても同様な調査を実施する予定です。日中両国の差異にも着目することで、東アジアの視点から保育や子どものウェル・ビーイングについても一考できればと考えています。

男女共同参画支援ステーションからのお知らせ

オープンキャンパスで「男女共同参画でかがやく☆未来コーナー」を展示しました

男女共同参画支援ステーションでは、女性研究者の裾野拡大に取り組んでいます。2019年8月3日・4日に、総合研究棟2階で「男女共同参画できらめく☆未来コーナー」を開設しました。高校生たちは、高知大学の女性研究者のキャリアと研究内容についてのパネル展示に関心を持って眺めていました。

2019年度男女共同参画推進室主催による講演会

ロールモデル講演会

「女性と健康と文化 ー 国際フィールド研究の経験から ー」

2019年6月10日、九州工業大学の宮地歌織先生(当時)をお招きし、ロールモデル講演会「女性と健康と文化−国際フィールド研究の経験から−」を開催しました。190人を超える参加者がありました。

綿密なデータと豊富な国際経験をもとに、宮地先生のキャリアの組み立て経験、仕事と家庭の両立、そして先生のフィールド研究であるケニアの女子割礼(Female Circumcision)に触れながら、リプロダクティブ・ヘルス／ライツ、自分の生殖行動に関する意思決定やその権利について学びました。参加した学生の皆さんは真剣な表情で宮地先生の話を聞いていました。講演後に宮地先生の周りに質問する学生が集まり、学生にとっても非常に興味深い話であったことが伺えました。

「国際的に活躍する女性研究者に訊く、シビル・エンジニアリングの世界と魅力」

2019年6月3日、次世代のキャリア支援の一環として、ロールモデル講演会「国際的に活躍する女性研究者に訊く、シビル・エンジニアリングの世界と魅力」を開催しました(朝倉キャンパス)。講師の庄子真由美氏から、国際協力機構のインフラ整備専門家として、ザンビア、ミャンマー等での国際協力プロジェクトの仕事と育児の経験から、土木工学分野で働く魅力、育児との両立、キャリア形成について講演をいただきました。小さなお子さんとの単身赴任のなか、土木技術の専門家としてミャンマーで働く姿や両立の工夫に、参加した学生は興味津々でした(参加者208名)。

「固定観念を脱ぎ捨てる ー 哲学研究とフランスから学んだこと ー」

2019年10月10日にロールモデル講演会「固定観念を脱ぎ捨てる−哲学研究とフランスから学んだこと−」を開催し、60人が参加しました。講師には、四国大学文学部教授の谷口薫氏をお呼びし、仕事と生活のキャリア形成についてお話を伺いました。谷口先生はフランス哲学を専攻し、フランスで幼少期と高校時代を過ごした経験から、フランスの文化は大人中心の成熟志向の文化であり、個人が重視されることが語られました。

大学院時代はフランス現代思想やジェンダー論をたくさん読み、業績や論文、スキル・資格を積み上げていくことの重要さが指摘されました。働き始めてからは、譲れないところと譲れるところの見極めが大事であり、正しさに拘泥せず、固定観念を脱ぎ捨てることが大切です。「○○が当然」という固定観念は不自由を生むので、自分がどうしたいのか見失わないこと、さらに異文化体験は人を豊かにし、強くするというメッセージが伝えられました。

マネジメントセミナー

2019年7月26日、篠田真貴子さんをお招きし『ヒューマンマネジメント講座「プレーヤーの流儀・マネージャーの流儀」』を開催しました。篠田さんからはご自身の経験から、リーダーシップとは「管理職になったから発動されるものではなく、年齢、性別、職位に関係なくだれでも、周囲の状況を見てみんなのためを思ってする行動」であって、管理職が権限のみで人を動かすのは、必ずしもリーダーシップではないと言います。

例えば、打ち合わせの後、余ったお菓子を「はい、持っていきー」とみんなに持たせるような動き。「言われなくても、状況を見てみんなのために行動すること」がリーダーシップと言うお話に、参加者の皆さんも楽しんで聞き入っている様子でした。

女性管理職研修セミナー

2019年9月20日、NPO法人マドレボニータ代表の吉岡マコさんをお招きし『職場の新常識！産育休と復帰を見据えた職場環境「職場の男性こそ知るべき産後ケア～育休からの復帰後ますます活躍できる職場を目指して～」』を開催しました(朝倉キャンパス)。

女性も男性も私たちの体のメカニズムを意外と知りません。これらを知ることでより効果的な働き方を工夫できるように感じました。また、19日には前夜祭として「産後ケア人材を育てるシゴト」を岡豊キャンパスで開催しました。産後の母親の回復を支援する環境がこれまでほとんどなかった状況や、その重要性が認識されるようになり、様々な取り組みが行われていることがわかりました。

若者の過労死問題を考える講演会

2019年9月24日、愛媛大学名誉教授の長井偉訓先生と過労死遺族の会の久保直純さんをお迎えして過労死等防止対策等労働条件に関する啓発授業『過労死ゼロ！若者の過労死問題を考える』を開催しました。

はじめに、過労死遺族の会の久保さんに、その経験についてお話しいただいた後、長井先生より「若者の過労死・過労自死の現状と特徴」「電通女性新入社員過労自死事件の論点」「日本における過労死問題の構造的要因」について講演いただきました。過労自死については、長時間労働に加えてパワハラなどのハラスメントが影響しているそうです。安定しているお堅いイメージの職場で起きている事例に、学生たちは真剣な面持ちで話に聞き入っていました。

英語論文セミナー

2019年11月6日、朝倉キャンパスにて、エルゼビア・ジャパン株式会社の高石雅人さん（シニアカスタマーコンサルタント）をお招きし、「英語論文投稿セミナー：アクセプトされやすい英語論文とは？ 出版社の立場から」を開催しました。国際ジャーナルの投稿に関する内容を網羅した構成で、今まさに英語論文を執筆中の大学院生、また学生の論文を指導している教員を中心に 37名が参加しました。参加した大学院生からは、「国際ジャーナルに投稿する際の具体的な注意点や論文投稿に役立つツールについて知れただけでなく、よくアクセプトされる論文を書こうと言う気持ちをもらった」という意欲的なコメントがありました。

LGBTs 講演会

2019年10月28日、タレントで文筆家の「まきむぅ」こと牧村朝子さんに「Super Regional Sexualities! 冥婚、走婚、女性婚・・・世界の様々な地域・文化・時代から」について講演いただきました（参加者195名：朝倉キャンパス）。「性的な指向(Orientation)」ではなく人間同士の「関係性(Relationship)」の在り方という視点での捉え方に共感している人が多かったようです。LGBTという与えられた枠組によって便利になった側面と同時に、かえって苦しくなった部分もあるというお話に、皆さん頷きながら聞き入っていました。また、同日夕刻に開催した「イブニングトーク」（岡豊キャンパス）では、クラフト=エビングの著書『プシコパシア・セクスアリス』をもとに興味深いお話を聞くことが出来ました。

科研費獲得セミナー

2019年9月19日に「科研費獲得のためのホップ・ステップ・ジャンプ～研究計画調書の書き方～」を開催し、24名が参加しました。宮井千恵理事による挨拶では、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」事業の一環として本学では研究力向上を図り、優れた研究成果の創出につなげて女性研究者の活躍の場を広げることを目標としていることが紹介されました。

大澤清二氏（大妻学院理事・大妻女子大学副学長）による講演では、科研費申請書の申請種目の選定方法は狙いやすい分野にすることや、学術的重要性や申請経費の必要理由の書き方について具体的にご教示頂きました。根幹となる研究についての心構えから講演していただいたので研究者が研究を進めるための姿勢を学ぶことができました。研究推進課の池澤理恵子主任からは、科研費審査システム改革による主な変更点と留意事項について説明がありました。

女性活躍推進セミナー

2020年1月20日に、大沢真知子氏（日本女子大学人間社会学部 現代社会学科教授、日本女子大学現代女性キャリア研究所所長）をお招きして、女性活躍推進セミナー「21世紀の生き方・働き方を考える―ライフ・ワーク・キャリアを築くために―」を開催し、194名が参加しました。国際的にみて日本の若者の昇進意欲は高くないのはなぜかを問いかけ、長時間労働を良しとする企業風土や日本人の労働生産性の低さについてお話いただきました。昇進意欲を高めるには、チャレンジングな仕事や昇進に結びつく仕事を通じて自己効力感を持つこと、上司からの承認を受け、組織での所属感を得ることが必要です。このような働き方によって、仕事と人間関係・健康・社会貢献とのワーク・ライフ・インテグレーションを生むことができるのです。

共通教育科目「男女共同参画社会を考える」を実施しました

男女共同参画推進室は、共通教育科目「男女共同参画社会を考える」と共同で、男女共同参画社会に関する学生教育を行っています。授業のテーマは、「男女がともに生き生きする社会」「新しい時代の暮らし方と働き方」を考えることで、143人の学生が履修しました。

男女共同参画について、憲法やジェンダー論、家族論、哲学など多様な学問分野から学生は学ぶことができました。さらに、こうち男女共同参画センター ソーレと共同で「男女共同参画のキャリアデザイン」講座を開催して、高知で働くロールモデルの話を聞いて学生が自分自身のキャリアについて考えました。

2019年9月21日

1限　【オリエンテーション】男女共同参画とは何か…　小島 優子　安全・安心機構
2限　男女共同参画とワーク・ライフ・バランス…　宮井 千恵 理事（ワークライフバランス担当）
3限　デートDVについて考える ……　こうち男女共同参画センター　ソーレ
4限　映像からみた男女共同参画 ……　中川 香代　人文社会科学部
5限　就業の場における「男女共同参画」― 雇用平等の現状と課題 ―
……　池谷 江理子 氏（高知工業高等専門学校名誉教授）

9月22日

1限　大学のなかの男女共同参画 ……　廣瀬 淳一　安全・安心機構
2限　家族から見た男女共同参画 ……　森田 美佐　教育学部
3限　高齢社会における男女共同参画　― 認知症サポーター養成講座 ―
……　小笠原 千加子 氏（認知症の人と家族の会高知県支部）
……　大川 愛 氏（高知市健康増進課）
4限　憲法で学ぶ男女共同参画 ……　藤本 富一　教育学部
5限　男女共同参画とジェンダーの考え方いろいろ…　武藤 整司　人文社会科学部

9月23日

1限　キャリア支援講座
「これから働き始めるあなたたちへ～しあわせに働ける社会とは何か～」
……　竹信 三恵子 氏（ジャーナリスト・和光大学名誉教授）
2限　キャリア形成セミナー
……　ロールモデル
……　小松 和也 氏（高知市役所市街地整備課）
……　鈴木 琴栄 氏（音楽療法士、ピアニスト、シンガーソングライター）
……　野町 道子 氏（株式会社サニーマート商品部商品企画室 室長）
3限　グループディスカッション ……　竹信 三恵子 氏

4限　生殖医療と男女共同参画 ……　小島 優子　安全・安心機構
5限　育児から見た男女共同参画 ……　岩佐 和幸　人文社会科学部

共通教育科目「男女共同参画社会を考える」

男女共同参画推進室講演会「男女共同参画とワーク・ライフ・バランス」

2019年9月21日に宮井千恵理事（ワークライフバランス担当）により、「高知大学における働き方と生活に関するアンケート」（2018年12月3日～2019年1月18日実施、回答者数：1,784名、回答率67.9%）の結果概要に関する報告がありました。本学の教職員のうち、定時で仕事を終えて職場を離れることができなかった者は58%であり、その原因としては「仕事の量が多い」66%、「人手が足りない」39.3%でした。生活については、就業日の家事時間は女性3時間、男性1時間、育児時間は女性3時間35分、男性1時間15分、介護時間は女性59分、男性26分でした。現在の職場で困っていることでは、労働時間、給料の順に回答が多くありました。アンケートの結果、改善に向けては、労働時間を縮減するための業務の見直し（業務の優先順位、配分）、ペーパーレス化、IT化、会議の方法等、あらゆる可能性について検討を行い、できることから取り組んでいきます。

雇用平等に関する講演会

2019年9月21日に高知工業高等専門学校名誉教授　池谷江理子氏に、「就業の場における男女共同参画～雇用平等の現状と課題～」について講演していただきました。男女雇用機会均等法は、差別抑止義務の一部が努力義務に留められている点において、差別禁止法としては不完全です。ですが、雇用の場における女性差別は法的に許されないものであるというメッセージは明白でした。雇用平等からみますと、男女間の賃金、昇進・昇格、役付きなどは均等待遇には程遠い雇用環境です。雇用平等を阻んでいるのは、企業の雇用文化や平等支援制度の充実度、家庭内役割分業、性差別的文化環境など、私たちの周りには様々な要因があるのです。

デートDVセミナー

2019年9月21日に男女共同参画推進室では、こうち男女共同参画センター「ソーレ」との共催で、「デートDVセミナー」を開催しました。講師は「ソーレ」の職員2名が務めました。冒頭に「デートDVとは」と題して、デートDVに関する説明がありました。続いて、「同意と性暴力」に関して「性行為を紅茶に置き換えた」英国の動画が紹介されました。動画については「わかりやすい」「友達に紹介したい」といった意見がありました。

次に、講義や動画を踏まえたワークショップとふりかえりが行われました。参加した学生からは以下の感想がありました。「デートDVにおける暴力は手段でしかなく、本当のねらいは『支配』であるということを知ることができました。最近では、SNSなどの普及が暴力にまで影響を及ぼしている現状が本当に怖いと思いました。デートDVの被害にあっている方のエピソードを聞いて慣れることの怖さを感じました」。

第12回ワーク・ライフ・バランス講座「認知症サポーター養成講座」を開催しました

2019年9月22日に認知症サポーター養成講座を開催しました。高知市健康増進課の大川愛氏から認知症とはどのような状態であるかを学び、若年性認知症についても知識を得られました。さらに認知症の人と家族の会高知県支部の小笠原千加子氏から配偶者の介護のご経験をうかがいました。実際に介護をされている方のお話をうかがうことによって、認知症を身近なものと捉えて学びを得ることができました。

男女共同参画のキャリアデザイン

「これから働き始めるあなたへ～しあわせに働ける社会とは何か～」

2019年9月23日に竹信三恵子氏（ジャーナリスト、和光大学名誉教授）を、こうち男女共同参画センター ソーレ様の御協力によりお招きしてキャリアデザインセミナーを開催しました。働くことは社会の心臓であり、働くという仕組みを整えるのが労働政策です。日本社会では、依然として、過労死や非正社員の貧困、職場での性差別など根強い問題があります。その背景にあるのは、男性が女性を扶養するという意識であり、家族を扶養する男性は長時間労働が当然であり、それに対して女性は「困ったら結婚！」とさせる社会システムです。その結果、正社員と非正社員の二極化が進み、同一労働同一賃金が未整備のままです。国際基準にもっていくには、女性が働きやすい労働時間と、仕事が正当に評価される賃金基準であり、それが男性にとっても人間らしい生活をつくります。

キャリア形成セミナー

野町道子氏（株式会社サニーマート商品部商品企画室 室長）、小松和也 氏（高知市役所市街地整備課）、鈴木琴栄 氏（全米・日本音楽療法学会認定音楽療法士、ピアニスト、シンガーソングライター）をロールモデルとしてお招きしてキャリア形成セミナーを開催しました。

野町道子氏からは営業本部長、役員として勤めていく中で「女性初」ともてはやされるのとは裏腹に経営の厳しい現実を目の当たりにしていった状況をお話いただきました。女性管理職のデメリットは出産や育児などの壁、社外交渉時に「女では話にならない」と対応されること等がありますが、メリットとしては顔と名前が覚えてもらえること、コミュニケーションを取りやすいこと、お客様のニーズや気持ちが理解できることがあります。

小松和也氏からは、育児休業を取得して思うことについてお話いただきました。仕事に邁進する中で、普段は得難い家族との時間を長期に渡り持つことのできる貴重な機会が育児休業です。育休期間は家事と育児の更なるスキルアップのチャンスであり、夫が積極的に育児休業を取得して夫婦で家事と育児を行うことができれば、妻の負担が軽減されます。

鈴木琴栄氏からは、「NYから土佐町に移住して～音楽家・音楽療法士としてのキャリアの積み方～」というタイトルで、大学生の時に図書館で音楽療法士について知り、その後留学して目指すことになったきっかけについてお話いただきました。パートナーの仕事に伴ってニューヨークから土佐町へ移住しながら、シンガーソングライターとしてもキャリアを積んでいった過程をお話しされました。